

令和五年度入学試験問題（学校推薦型選抜Ⅱ）

小 論 文

教育学部 学校教育教員養成課程

小学校教育コース 教科教育専攻 国語教育専修

注 意 事 項

- 一、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 二、解答は必ず解答用紙に記入すること。
- 三、解答用紙の他に、下書用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
- 四、解答時間は、一二〇分である。
- 五、縦書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。
- 六、解答する際の字体は楷書とし、ていねいに書くこと。

非公開

問題

次の文章を読んで、あとの各問に答えなさい。

非公開

(汐見稔幸、『教えから学びへ 教育にとって一番大切なこと』、河出書房新社、二〇二二年、一九二〜一九六ページ、抜粋・一部改変)

問一 傍線部①「ウサギを抱えて子どもに『はいどうぞ』と渡しました」の教育的意義について述べなさい。(二〇〇字程度)

問二 傍線部②「二つの危うさ」について、それぞれにふさわしい事例を自分で考え、説明しなさい。(三〇〇字程度)

問三 傍線部③「その子が体験している世界に言葉を丁寧に添えるということが何よりも大事なのです」を実現する小学校低学年国語の授業を構想し、大まかな授業展開について述べなさい。(四〇〇字程度)

令和五年度入学試験問題（学校推薦型選抜Ⅱ）

小 論 文

教育学部 学校教育教員養成課程

小学校教育コース 教科教育専攻 国語教育専修

出題の意図

本専修では、国語科の世界の豊かさを生かして、多様な素材文を提供し、受験生が付け焼き刃でない「国語科へのこだわり」「国語への思い」を持つているかどうかを、小論文試験において測りたいと考えている。

まず、これまで出題してきた近年の試験問題を振り返る。令和二年度は、俳句をあつかった素材文を二種類用意し、沖縄と本土の季節感のずれを沖縄の小学校で俳句学習を行う際にどのように克服させるかについて考えさせた。令和四年度には、いわゆる若者ことばの「ヤバイ」という語の表現と短歌を通じて、文化的な価値観について深く考えさせた。

本年度は、体験に寄り添い思考力を育てることについての素材文を用意した。これは教育学的知見に基づくものである。問一では、実際に経験させることの教育的意義、問二においては、言葉につきまとう「二つの危うさ」について説明させることにより、論理的な記述力を評価する。問三では、実際に子ども達が体験している世界に丁寧に言葉を添えることの重要性を意識した小学校低学年の授業を考えさせることにより国語教育への構想力を測りたい。

この入学試験問題を用いることにより、受験生が、教育学部学校教育教員養成課程のアドミッションポリシーにおける「一 教員として主体性を持ち、子ども及び社会と関わっていききたい人」「二 教育の理念と実践を広く深く学ぶ意欲のある人」に適う人材であるかどうかについても確認したい。